

【氏名】 佃 陽子

【所属】(助成決定時) 東京大学大学院 総合文化研究科

【研究題目】

アメリカ合衆国における「移民」の定義に関する問題について
ー20世紀初頭テキサスの日本人の事例からー

【研究の目的】

本研究の目的は、20世紀初頭にテキサス州で米作を営んだ真弓吉雄という日本人を事例として、「移民」とは誰のことを指すのか、国境間を移動する人はいつどのようにして「移民」になるのか、または「移民」であることをやめるのかという、アメリカ合衆国における「移民」の定義に関する問題を明らかにすることである。真弓の地元経済への貢献をたたえて20世紀初頭に命名されたストリート「ジャップ・ロード」は、2004年に日系人を中心とした人権団体から人種差別的であると非難を受け、全米メディアを巻き込んだ論争の引き金となった。ストリートの改名を訴えた日系人団体に対し、地元住民たちは真弓を郷土の英雄とする立場から反対したが、翌年ジャップ・ロードは改名された。本研究では、改名論争を通じた真弓の記憶のされ方と論争の中で不可視化された彼の主体性を事例として、「移民」というカテゴリーの社会的構築のプロセスを探った。

【研究の内容・方法】

本研究では、ジャップ・ロードのあったテキサス州ジェファーソン郡のファネットでのフィールド調査を中心に、ジャップ・ロード住民や日系団体などの改名論争にかかわった人々への聞き取り、一次資料の収集などを主な調査方法とした。テキサスでの調査では、改名論争を主導した日系市民協会およびAnti Defamation League(ADL)ばかりでなく、改名に反対した地元住民の双方から協力を得ることができた。テキサス州ヒューストン市では、改名運動を主導したサンドラ・タナマチ女史および日系市民協会ヒューストン支部長、改名運動に携わったADLのスタッフなどにインタビューを行い、改名運動の詳細について聞くことができた。ジェファーソン郡ではジャップ・ロードに住むウェイン・ライト氏の協力を得た。ライト氏は、実際に真弓が住んでいた家屋を改造して自分の家を建てたほど、真弓の物語に深い思い入れがあり、改名論争では地元住民のリーダー的役割を果たした。ライト氏を通して近隣住民にインタビューを行い、地元の人々が真弓という移民および改名論争をどのように記憶しているかについて聞くことができた。また、ライト氏が所有する真弓や改名論争に関する資料を閲覧し、真弓の所有していた農場やジャップ・ロードの跡地などを訪問することができた。

海外調査では、ロサンゼルスに住む真弓の曾孫へのインタビューも行うことができた。彼女は日本の新聞の海外支局に勤務しており、改名論争が全米に知れ渡った際にテキサスまで駆けつけて取材にも協力した。ロサンゼルスでは日系移民に関する豊富な資料を所蔵するカリフォルニア大学ロサンゼルス校の図書館や全米日系博物館で調査を行い、真弓と同時期にテキサスで米作を営んだ日本人移民に関する一次資料や、改名論争に関する新聞記事などを収集した。関西地方に在住する真弓の親族にインタビューと調査への協力を依頼したが、改名論争が人種問題にかかわる難しい問題だったことから、残念ながら対面でのインタビューは実現できなかったため、電話や電子メールで聞き取りを行った。

【結論・考察】

真弓は移民だったのかという問いに対して、日本に住む孫娘は否と答えた。それは日本において、「移民」という人々は概して一攫千金を求めた貧しい出自の出稼ぎであったという強いイメージがあるためであろう。確かに資産家の真弓は一般的に考えられる移民のイメージにはあてはまらない。しかし、アメリカでの聞き取り調査では、多くの人々が真弓を移民とみなした。真弓のテキサス滞在は一時的なものにすぎなかったが、日系人団体にとって真弓はやはり日系パイオニアの一人であり、地元住民にとっては郷土にとって重要な歴史の一部なのである。

また、改名の賛成派・反対派の両方に対する聞き取り調査から、改名論争においてメディアが大きな役割を果たしていたことがわかった。改名派は最初からメディアの影響力を利用することを戦略的に考えていた。メディアの報道内容に地元住民に苦悩したのは無論だが、静かな田舎町に突如報道陣が殺到した際の住民の困惑と驚きは、現地を実際に訪問して実感できた。今後はメディアがどのように移民を描いたかという点にも着目して研究を深めたい。